



水のはなし

2月14日

Sudden Fiction Project

高階 經啓
hirotakashina

2月14日のおはなし「水のはなし」

自分で言うのも何だが、上っすべりだなと思う。みんなはサキちゃんは何でもできてすごいとか言ってくれるけど、そう言われてみんながそう思ってくれることは悪い気しないけど、でも自分では全然そうは思わない。わたしは上っすべりなんだ。

例えば映画。わたしはたくさん映画を見ている。流行りの映画もたくさん見るが、あんまり人の知らないような、変な映画をビデオやDVDで見たりする。この何年かずーっと年間100本はコンスタントに見ている。それを知った人からは驚嘆のまなざしで見られて、すごい映画通みたいに思われる。でも映画通なんかじゃない。映画評論家とかが書くようなことはわたしにはさっぱりわからない。監督がどうしたとか、テーマがどうしたとか、カメラワークがどうしたとか、構図がどうしたとか、色彩がどうしたとか、1ミリも考えたことがない。ただ最初から見始めてエンドロールが終わるまで見続けるだけだ。そして見終わったらそれでおしまい。何も考えない。思い返すこともないし、意味を考えたりしたこともない。というか、見終わった映画について何を考えればいいのかわからない。だから感想を聞かれたり、おすすめの映画を尋ねられたりしても本当に困ってしまう。

例えば園芸。うちの小さな庭にはたくさんの野菜が植わっている。ミントとゴーヤとオクラは放置状態でもどんどん育つし、ルッコラとサラダ菜とミニトマトとサヤエンドウとタアサイあたりは、そのどれかがほとんど毎食卓をにぎわせている。取れすぎるとサークルのみんなにわけあげたりするので、「グリーンハンドの持ち主」と言われたり、「わたし何回やってもすぐ枯らしちゃうの、コツを教えて」なんて頼まれるけど、正直言って教えることなんて何もない。だってわたしは植えたっきり水をやる以外ほとんど何もしないからだ。あとは勝手に育って勝手に実がなる。「どうみても雑草」というのが生えて来たら引っっこ抜くけれど、それすら滅多にない。人の話では雑草むしりをはじめとして、葉っぱに虫がついたり、根っこを虫に食われたり、病気になったり、原因不明で急に弱り出したり、定期的に肥料を上げたり、本当に大変らしいんだけど、そんなのやったことがない。サークルのハラクミなんか「導師！」なんて言って頼ってくるけど導きようがない。

女の子同士で旅行に出かけるとまた「サキちゃんすごい」の連発になる。あれは演技なのか本当なのか、みんな「わたし方向音痴なの」という。女子は方向音痴の方がかわいいことになっているのだろうか。もしそうならわたしもそんな風に言ってみたい。けれども、わたしは道に迷ったことがない。札幌でも、金沢でも、萩でも、長崎でも、イスタンブールでも、パリでも、ベオグラードでも、昆明でも、ムンバイでも、ハイデラバードでも、バリでも、ベリーズでも歩いていけるところにはただすたすた歩いていけばたどりついた。疑り深い友だちなどは隣で地図をひっくり返して眺め回しているけれど、そんなこともしない。ただホテルやコンドミニウムを出て、目的地まで歩くだけだ。あるいは寺院を出てバザールまで歩いたり、美術館を出て大聖堂まで歩いたりするだけだ。「どうやってるの?」と聞かれることもあるが、何もしていない。「地図が頭に入ってるの?」とか、最近では「わかったストリートビューでシミュレーションしてるんでしょ」とか、いろいろ言われるけど、やったことがない。地図を見たことがないとは言わないけど、とりわけ熱心ということはない。道に迷うというのがどういうことなのか想像できない。

サキ、道案内おねがい。

わたしと旅行した友だちはみんなそう言うようになる。東京にいてすらそう言うようになる。そのうち映画でも、家庭菜園でも、お菓子づくりでも、ボウリングでも、キャンプでも、観能でも、釣りでも、写真でも、わたしが何でもできると思い込んだ友だちがみんなわたしに教えるを乞いにくる。そしてその比喩に気づいてみんながこう言うようになる。サキ、道案内おねがい。でもわたしに道案内はできない。道案内というのはどこに道があるのかわかっている人がすることだ。わたしはただ考えもなくすたすた歩いていたら目的地にたどり着くだけ。植えれば実がなるし、投げればピンが倒れる。水が低い方に滑り落ちるように、そこには何の努力もないし工夫

もない。思索も省察もない。だって水が、自分は何の上を滑り落ちているのかなんて考える？
そう。わたしはつるつるした何かの上をすーっと滑り落ちる水滴なんだよ。ついてきてくれるのは構わないけど、それ以上は期待しないで。やり方は、そう、重力にでも聞いてみて。

(「道案内」 ordered by 山本ヤマ-san/text by TAKASHINA, Tsunehiro a.k.a.hiro)

感謝の言葉と、お願い&お誘い

Sudden Fiction Project（以下SFP）作品を読んでいただきありがとうございます。お楽しみいただけましたでしょうか？ もしも気に入っていただけたらぜひ「コメントする」のボタンをクリックして、コメントをお寄せください。ブログへの登録（無料）が必要になりますが、この機会にぜひ。

「気に入ったけどコメントを書くのは面倒だ」と言うそのあなた。それでは、ぜひ「ツイートする（Twitter）」「いいね！（Facebook）」あたりをご利用ください。あるいは、mixi、はてな等の外部連携で「気に入ったよ！」とアピールしていただくと大変ありがたいです。盛り上がります。

※星5つで、お気に入り度を示すこともできますようですが、面と向かって星をつけるのはひょっとしたら難しいかも知れませんね。すごく気に入ったら星5つつける、くらいの感じでご利用いただければ幸いです。

現在、連日作品を発表中です。2011年7月1日から2012年6月30日までの366日（2012年はうるう年）に対して、毎日「1日1篇のSFP作品がある」という状態をめざし、全作品を無料で大公開しています。→[公開中の作品一覧](#)

SFP作品は、元作品のクレジットをきちんと表記していただければ、転載や朗読などの上演、劇団の稽古場でのテキスト、舞台化や映像化などにも自由にご活用いただけます。詳しくは「[Sudden Fiction Project Guide](#)」というガイドブックにまとめておきました。使用時には、コメント欄で結構ですので一声おかけくださいね。

ちょっと楽屋話をすると、7月1日にこのプロジェクトを開始して以来、日を追うごとにつくづく思い知らされているのですが、これ、かなり大変なんです（笑）。毎日1篇、作品に手を入れてアップして、告知して、[Facebookページ](#)などに整理して……って、始める前に予想していたよりも遥かに手間がかかるんですね。みなさんからのコメント、ツイート（RT）、「いいね！」を励みにがんばっていますので、ぜひご協力お願いいたします。

読んでくださる方が増えるというのもとても嬉しい元気の素なので、気に入った作品を人に紹介して広めていただけるのも大歓迎です。上記Facebookページも、徐々に充実させてまいりますので、興味のある方はリンク先を訪れて、ページそのものに対して「いいね！」ボタンを押してご参加ください。

10月からは「1日1篇新作発表」の荒行（笑）を開始し、55作品ばかり書き上げる予定です。「[急募！お題 この秋Sudden Fiction Project開催します](#)」のコメント欄を使って、読者のみなさんからのお題を募集中です。自分の出したお題でおはなしがひとつ生まれるのって、ぼくも体験済みですが、かなり楽しいですよ！ はじめての方も、どうぞ気軽に遠慮なくご注文ください（お題は頂戴しても、お代は頂戴しないシステムでやっています。ご安心を）。

こんな調子で、2012年6月30日まで怒濤で突き進みます。他にはあんまりない、オンラインならではの風変わりな私設イベントです。ぜひ一緒に盛り上がってまいりましょう。

水のはなし

<http://p.booklog.jp/book/44276>

著者 : hirotakashina

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/hirotakashina/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/44276>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/44276>

公開中のSudden Fiction Project作品一覧

<http://p.booklog.jp/users/hirotakashina>

電子書籍プラットフォーム : ブックログのpapier (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社paperboy&co.